

# 介護体験を 聞く会



ホームページ  
<http://www.yanagida-kaigo.co.jp/>

## 第165回 介護体験を聞く会

### 議題

- ① Tさん（脳梗塞後遺症にて廃用症候群の防止リハビリをしている84才）
- ② 在宅介護家族相談会
- ③ グループホーム旭町運営推進会議
- ④ 文化祭について

①事例検討  
検討の目的  
定期的な利用のなかで上げ下枝の拘縮予防、可動域確保、筋力維持向上を継続させるため。  
社会交流をすることによって生活の質の向上を目指す  
氏名・Tさん  
生年月日・昭和6年3月

17日

介護度・要介護4

利用開始日・平成27年

7月1日

出身地・京都府京都市

趣味・アートフラワー

性格・穏やか

主介護者・次男・次女の嫁

### 既往歴

高次脳機能障害、高血圧症、うつ病、不眠症、認知症（HDS-R12点）、排尿障害、脳出血  
生い立ち・経緯  
京都市内北部で誕生。

小学生の頃、母と姉を相次いで結核で亡くしている。弟・妹の面倒をよく見ていた。京都市電勤めの父がその後の家事を担うが、のちに本人が親戚のおばさんに家事を習い、家事も担うことになった。また、お手伝いさんがいたときもあり、父親が

会報第164号

平成27年10月31日発行

発行所・（有）明寿会

住所・川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

\*定例会は最終土曜日です。

（今月は10月文化祭）です

その方と再婚したが後に死別している。昭和30

年頃結婚し川崎へ居住。

夫と化粧品・雑貨の店を

営み、昭和32年に長男、

昭和34年に次男誕生。

集団就職で上京した若

者を従業員として受け入

れ、若者のお母さんの役

割もしていた。

平成26年に夫がパー

キンソン病でなくなる。

発病以来8年間介護をし

ていた。平成27年脳

出血で入院し、6月に退

院。

### ご家庭での様子

自宅内では手すりや家具を支えにして自分で移動している。排泄、静養、食事も自立。入浴は現在デイケアにて行っているため自宅では入っていない。デイケアに行かない日は食事以外横になって



昔を思い出して、

### 真剣なお年寄りの稲刈り

家事は次女の嫁が担っているため、本人は食器を流しへ運ぶ程度の手伝いをしていて、

家庭での困っていること、解決したいこと。

病院から退院したばかりの時は歩行が順調だった。毎日リハビリを受け

ていない現在、食事以外の時は横になっているので心配。

デイケアでの様子  
歩行・杖歩行時は片手引き、杖なし歩行時は両手引きで介助

食事・箸を使い自立  
入浴・一部介助。声かけ

をすれば自分で洗うこともできる  
排泄・ほぼ自立。トイレまで案内。デイケアでは失禁なし、自宅ではまれにある。  
創作・レクリエーション活動では他の利用者と一緒にしている。ゲーム性のあるものでもないものでも、一緒に楽しむ姿勢があり、他者がうまくいったときには自分の事のように喜ぶ場面がある。  
今後の対策  
本人の安全を考慮しつつ自宅でできる体操やご家族が助かる家事を共に見つけること。馴染みの利用者との交流で楽しみを見つめる。  
可能なことと不可能なことを見極めて出来る事をご自身で行える様な支援をしていく。  
柳田ケアマネ・認知症が顕著な場面は？  
杉山・京都にいた頃のご自身やご主人の仕事を引きと「どうだったかしら」と覚えていない。トイレの声かけで立ち上がると「何するんだっけ？」と仰ることもある。来室開始当初は、昼食後に「息



デイサービスもしかめ体操

子が迎えに来るから」と度々帰ろうとしたが、1ヶ月くらいすると言われなくなった。

横山・脱衣時に脱ぎ方がわからなかったりする。「ここへ手を通して下さい」と言ってきたら、「トイレに入ると中から鍵を閉め、出る際に開け方が分からず戸惑う事があり、スタッフが「開けて下さい」と声をかけると開けて出てこられる。

院長・食事以外は寝ているという生活は、廃用性萎縮と言って、認知症を促進させる生活。しかし、家族が忙しかったりやむ

を得ずそういう形式になつてしまうことも多い。通所や施設で体を動かすことが必要。

### ②在宅介護家族相談会

森下さん・好きなテレビを見て、一緒に歌うことは進行予防になりますか？

院長・テレビを見て、平面的な映像を空間的・立体的な物として脳内で再構築することが、認知症の人には難しい。なので認知症になるとテレビを見なくなる。音や音楽は耳への刺激にはなる。

杉山・この事例の方の場合、家族としても役割を持って洗い物などをやってももらいたくても、一人では難しい。

院長・集団の中にいけば、周りにいるの真似ができる。そういう意味でも、集団に参加することは認知症予防に繋がる。

柳田ケアマネ・サービスを増やして、訪問リハや通所を増やせばより改善していきけるのでは？

杉山・来室当初より歩行状態は改善傾向にある。今認定を受けたら4が出るかどうか。

柳田ケアマネ・家族の意向をきくことも大切だが、本人の意向をもう少し聞いていければ。主役は本人、多くの苦勞を乗り越えてきた人生のよう、今後も本人らしく生活できれば。

Oさん・グループホームに入居した母は、近所の人と会う約束をしていても、認知症のせいで忘れてしまい、段々疎遠になっていった。平日はデイサービスに通っていたが土日は単位が足りず、自宅にいた。ずっといられるグループホームというのがあるよと紹介され、母に1週間体験してもらったらいよいよと気に入つたので、入所を決めた。入居後も家にいたときと同じで、マイペースで生活できているようで良かった。兄弟が多かったからか、みんなというのが良かったのかも。

外出した際「もう帰ろうよ」と言ったので、家にかと思つたらグループホームに帰りがついていた。今の生活に慣れてきている。

Nさん・ショートステイ

で落ちついていたが、1泊2日では(感覚的には)すぐ帰ってきてしまう。同じスーパーに1日15回も買い物に行く。1度にマスクを3箱買い込んで来るので、スーパーに売らないでくれと頼んだが「買わないでくれと頼んできてくれ」と言われた。1日15回、付いてなんて行けない。早く施設に入りたい。

柳田ケアマネ・ショートステイが順調に長く出来れば、施設にもスムーズに入所できるはず。

Mさん・母が外出したときに「殺されないように」と口にした。老人ホームの事件の報道を見て、気が収まっていたらしい。報道が収まってから日数が経っていたので一瞬何のことか分からず、返事に戸惑った。大丈夫よと声をかけるしかなかった。食べた事を忘れてしまうほどの認知症なのに、事件の報道を覚えていたのはなぜなんでしょう。

柳田ケアマネ・日常の平穩な事は忘れがち。感情的にショックの大きかったことは忘れないもの。

### ③グループホーム旭町運営推進会議

行事としては、8月9日に御神輿見学が、15日にはおはぎ作りと花火見物をした。家族にも同席していただいた。9月には実践者研修の受け入れをして、職員も勉強させていただいた。入居者さんは3名退室されたが、2名新しく入られ、現在空室が1室ある。

### ④文化祭について

10月31日、11月1日の2日間、診療所で文化祭を行います。中心となるのは認知症対応。柳田院長の講演も行い、認知症発症の共通点、廃用性萎縮、集団ケアの実践報告などを行う。



皿から直接食べる狼少年

## 集団体操の効果について

現在、柳田の各施設ではリアンをつかって集団ケア、集団体操を行っている。スエーデンではじめられたタクテールケアを個人個人の単位から、10人、20人くらいにまで拡大するもので、柔らかな毛糸を袋編みにした紐を手の代わりに握ってもらっている。

最初は木綿の布を輪にして握ってもらっていたが、回すときに摩擦で手の皮がこすれて痛いとのこと、毛糸のリアンにしたもの。

輪の状態にして回しながら手の柔らかな刺激を感じてもらうことが大切で、毛糸の紐が回ることでお互いが集団として感じてもらうことをねらったものである。一人ではない、仲間が居るのだという感覚を感じてもらおう。認知症が強い人はしっかりと握りしめて毛糸の紐を回さない。このような場合には隣の人から教えて

もらうとか、手の指を開いてもらって毛糸を回すやすくするなどの協力をしていただいている。それでも困難な場合には、毛糸を膝の裏に回して一人ではないことを感じてもらう実験をしている。

いままでつながりもなく座って輪になって話したり、体操をしていたころよりも、明らかにリラックスできるようで、認知症の不安が解消されてくる。いままではイスの座っていて落ち着いたかなとおもって風呂へ連れ出そうとすると、嫌だと拒否されていたが、リアンで手をつないでしばらくし、風呂へ誘導すると100%ちかく比較的入浴へ移動してくれる。リハビリへ誘導する場合もおなじで、拒否がすくない。

デイケアから特養へ移動された方がいたが、家族から特養に行ってもすぐにおちついて生活できているとの話をされ、デイケアでの集団活動の結果だと考えている。おなじくグループホームから特養へ移動された方も、

家族がグループホームでの集団生活の経験がよかったと話されていた。

## 狼少年の話

インドの狼少年の話は、自閉症をかかえる親たちに感心をもっているという。私たちも医師として治療にかかわったことがあるが、印象としては、比較的少し豊かな階層に位置する家庭の子どもの傾向にあるということである。というの

は子どもの五感からくる感覚的芽生えを理屈で規制する、抑圧する家庭環境があること。他方で原始的なスキンシップの環境は理屈で無視し、生命の安全な環境のなかで放置されてしまう。そして肝心のスキンシップを受け持つ人物を雇用するまで豊かではない家庭環境。その環境が幼少時の重要な時期、短期間でもつづくと、本来の脳細胞が成長を中止してしまう。幼三つ子の魂というが、幼児期の本来もつ急速なる大脳細胞の芽生えを抑制し、摘みとってしまいうか



グループホームもしかめ体操

らである。一度成長が中止されて時間がたつと、その大脳細胞は本来の性質を変えてしまう性質がある。成長の時期を逸する。

狼少年が4足歩行の動物から保護されるには二歩足で歩かないことである。もし人間の方向に成長して歩くと、オオカミは食い殺す。幼児の四つばいのまままで数年生きていて、立位歩行を抑制されていくと、手は前足に強制され、発達すべき人間らしさを獲得する大脳前頭葉はその部分の成長のチャンスを失い、人間らしさを止めてしまうだろう。これが狼少年である。

インドで発見された狼少年は、地元の司祭の努力で歩行するまで回復したというが、知恵遅れの状態である。それでは認知症はどの位置にあるのだろうか。それまでは大脳活動は正常であった。歩行も思考も正常。しかし、数年の廃用期間で認知症をおこしてくる。これで家族は困っている。しかし、明らかに手と大脳前頭葉とのルートは遺残している。それを今度アを行おうというわけである。



デイケアもしかめ体操

## もしもし体操の実施について

グループホームでのもしもし体操実施は多少無理があるのではないかと内心危惧していました。布をきちんとして握れない方、布を伸ばしてたたもうとする方など色々な方がいらっしゃると思います。ましてや歌に合わせて回すことなどできるわけ、いや、意味を理解されないと思っ  
ていました。実際、初めは布を持ってもらう事、それに慣れていただく事から気長にやってみてもらいました。皆さん歌は大好きなので笑顔で唄って下さいます。夢中になるとすぐに手を離して  
手拍子を始めたり、手がおろそかになり歌に夢中になったり、いろいろとありました。慣れてくると歌に合わせて右回りは少しづつできる様になっ  
てきました。左回りはすぐに途中で止まってしま  
いなかなかできません。でも、毎日朝と夕食後の  
2回利用者さんの好きな歌を各自に割り当てて主

になつて唄ってもらった  
りしながら続けているう  
ちに、今はリアンにな  
りました。皆さん握っ  
てくれるようになりまし  
た。職員が「手に持つ  
てください」と声掛けする

と手首に巻きつけて  
手拍子したりすること  
もありました。利用者さん  
と職員一緒になって笑顔  
で歌を唄い輪になって楽  
しむ事が初めの一歩になっ  
ているのではないかと思っ

ています。初めはすぐ飽  
きてしまわれた利用者さ  
んも少しづつ時間が長  
くなってきました。あせら  
ず、のんびり、ゆっくり  
とグループホームではやっ  
ていければいいと思っ

ています。  
グループホーム旭町  
小沢

鍵は手、集団、栄養

# 認知症対応力向上文化祭



文化祭開催：10月31日(土) 11月1日(日)  
柳田診療所 1階テイクア室  
(両日とも午前9時30分から夕方5時)

### 企画

午前10時 講演  
認知症の心  
認知症の医学的背景  
認知症に立ち向かうには  
★ポイントは手と集団と栄養

入場無料

午前11時 実演  
もしかめ体操、桃太郎、戦友、  
第二心臓体操、五十肩予防体操、  
ブーラー  
展示：回想の樹、作品、リアン実習  
給食展示解説

車イス介助方法、介護相談、悩み相談、

主催：介護体験を聴く会  
共催：柳田診療所  
(有)明寿会  
住所：川崎区中島1-13-3  
電話：044-233-0061  
駐車場あり  
<http://www.yanagida-kaigo.co.jp>